

第3回主幹教諭研修(2023/7/19)

主幹教諭としての人材育成

葛上秀文 (鳴門教育大学)

あなたなら？

- 校長は、学校の実態を踏まえ、〇〇に取り組みたいと考え、あなた(主幹)に、先生方に説明するよう依頼した
- 先生方は、学校の実態を踏まえると、今取り組むべき事は□□であり、校長を説得してほしいと懇願してきた

人材育成とは

- 情熱を注ぎたい職務は何か？
 - どのような職場で働きたいか？学校をどのような職場にしたいのか？
 - 将来のキャリアをどのように考えているのか？
 - 職能成長のためには、何をすることが必要か？
-
- 自己のキャリアデザインを描き、資質・能力を高めることへ意欲的に取り組む

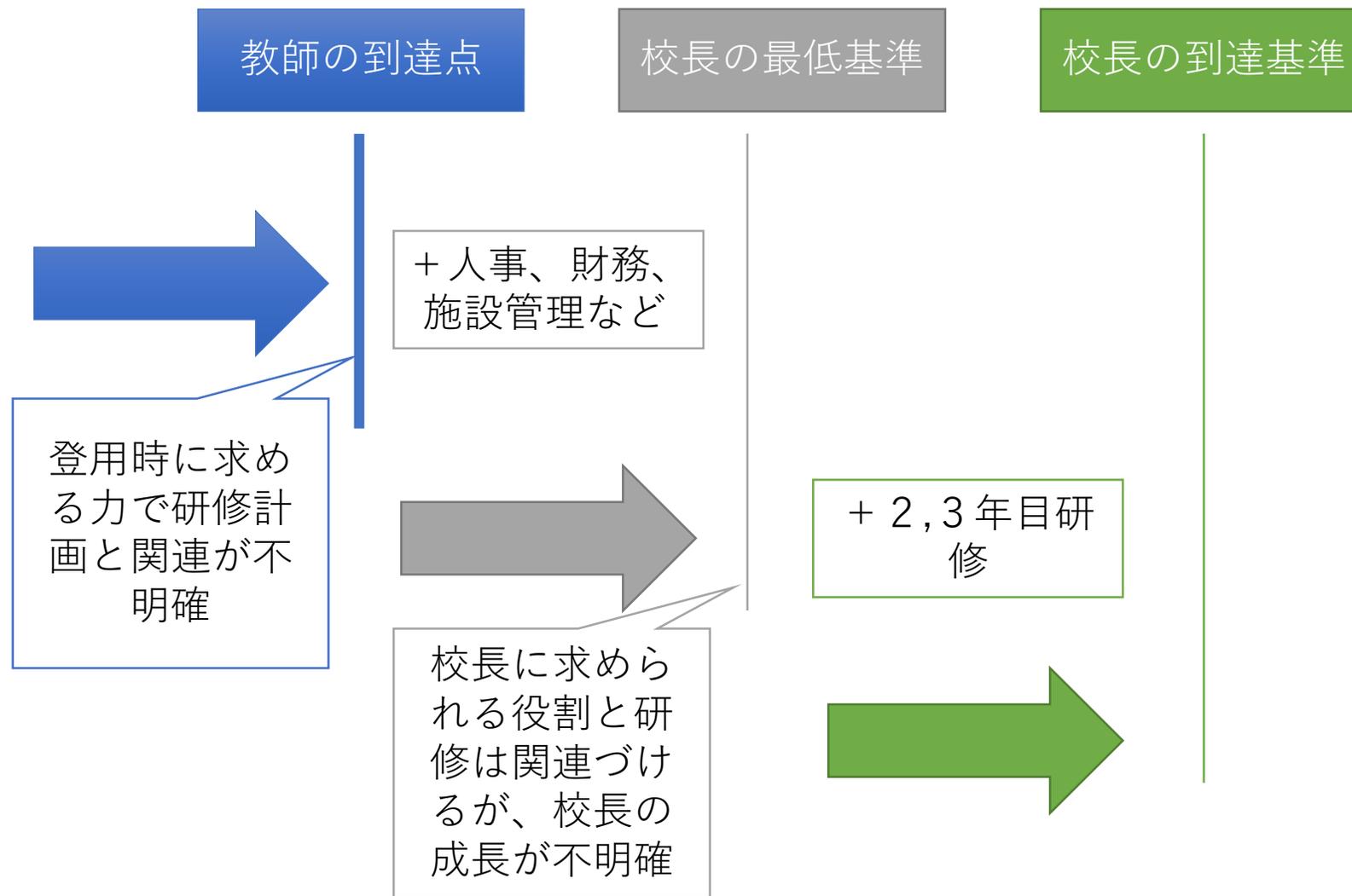
人材育成と育成指標

- 「育成指標」は主体的に学び続ける教員の育成を目指し、教職員として求められる資質・能力をキャリアステージごとに整理したもの
- 個々の教員がキャリアデザインを描くときのガイドとなるもの
- また、その道に進むために必要な研修が整理されており、校長との対話により、受講すべき研修を選択していくことが求められている

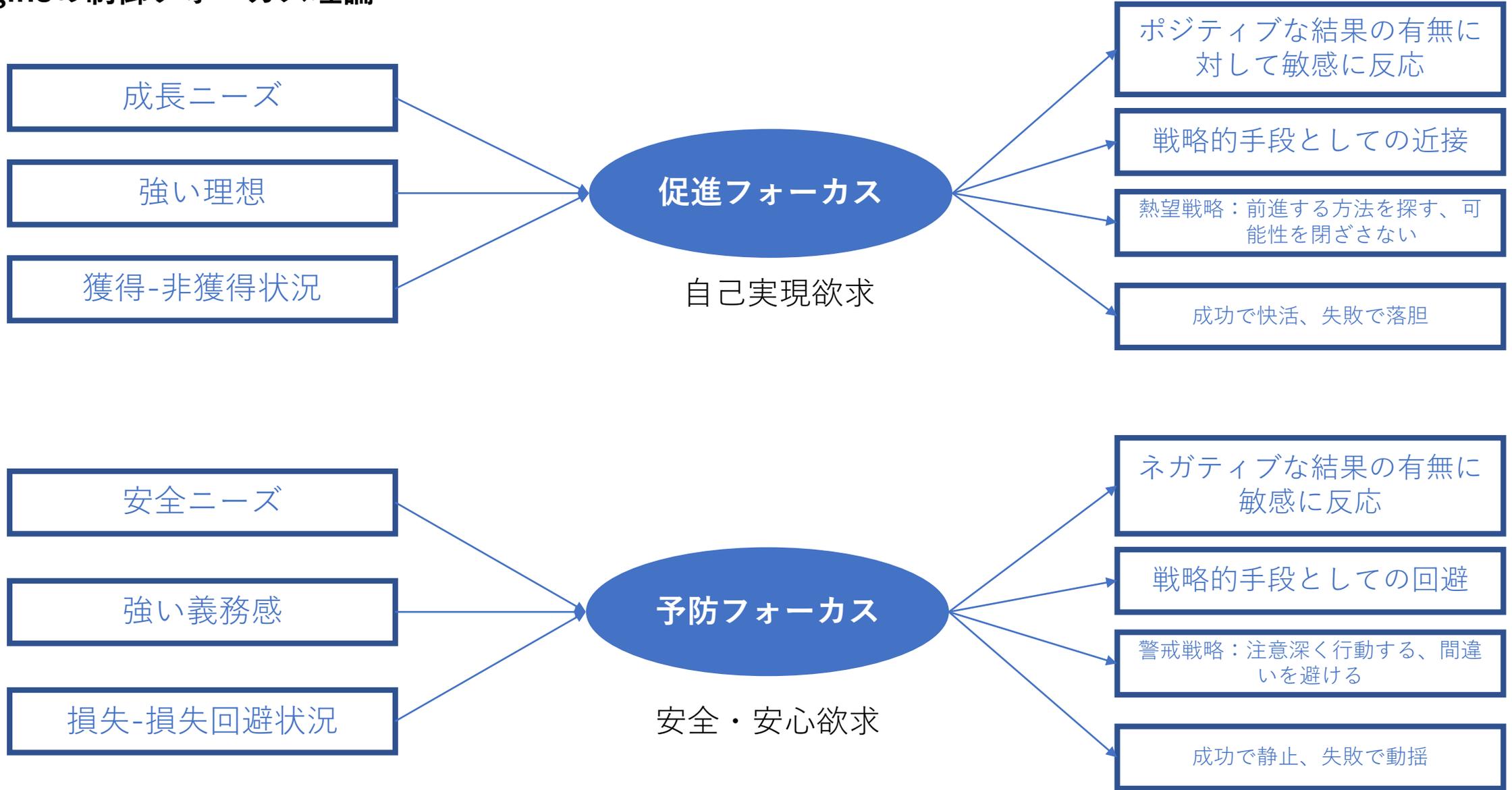
校長（管理職）の育成指標

- 大臣指針
教師のように明確な例示がない
- 都道府県・政令市の校長指標の方向性
 - ①教師の教師（教師の指導を行う＝教師が成長した最終形態）
教師の指標の最終ステージ
 - ②教師の教師＋管理者（①にマネジメントの要素）
教師のステージにマネジメントの内容を加味
 - ③管理者（学校の経営を行うマネージャー）
管理職として独立した指標

育成指標と基準



Higginsの制御フォーカス理論



マネジメントタイプに関する調査

	予防タイプ	促進タイプ
	問題を起こさないマネジメント	真の力を育成するマネジメント
子ども	トラブルを起こさない	自立した力を育成
保護者	クレームをつけられない	子どもの成長に向けて協働
教師	離反(好き勝手)されない	目標に向けて自立的に行動
教育委員会	指導を受けない	学校を変えるためのパートナー

N I T S の校長研修受講者が受講後に提出した成果活用レポートを読み、成果を活用していると考えられる校長10名にインタビュー調査を行う

調査対象者

小学校	A (女性・近畿)	B (男性・中国)	C (男性・東北)
校長年数 (レポート校)	4年 (4年)	2年 (2年)	3年 (2年)
教育委員会経験	なし	1年 (市教委)	複数回
その他	教職大学院		
マネジメントタイプ	促進	促進	促進

中学校	D (男性・関東)	E (男性・東北)	F (女性・東北)
校長年数 (レポート校)	5年 (2年)	3年 (1年)	2年目 (2年目)
教育委員会経験	あり	なし	5年 (複数回)
その他		つくばでの研修	大学研修
マネジメントタイプ	促進	促進	促進

高等学校等	G (男性・中国)	H (女性・東北)	I (男性・中国)	J (男性・近畿・盲学校)
校長年数 (レポート校)	2年 (2年)	3年 (2年)	2年 (2年)	2年 (2年)
教育委員会経験	なし	あり (4年)	なし	なし
その他			つくばでの研修(いじめ、副校長・教頭)	
マネジメントタイプ	促進	促進	予防 (中身的には促進)	促進

対象者のマネジメントタイプを形成する要因

- 当初より、促進タイプであったわけではない
- 教育実践、学校経営を複眼的、俯瞰的に捉える体験
教育委員会、教職大学院、中央研修など

中央研修受講の意義

- これまでのマネジメントを再整理
何が成果で、何が課題だったか改めて省察
- 新たに考えるべきマネジメントの視点
キーワード、納得
- 他校の多様なマネジメントの実践の交流
経営者としての視点、自校の課題を違った視点から検証

成果活用の取り組み

- 自身が果たした役割
蓄積された成果との峻別
- 思い込みではなく、変化の根拠
本当に改善されたか、それが共有されているか
- 課題改善の因果関係が明確
改善プランが、他の学校の参考になりうるか

研修受講前

- 教育委員会での経験
 - 大学、NITSなどの研修
 - 自治体の長期の研修
 - タイプの異なる学校での経験
- ↓
- 促進フォーカスのマネジメント

中央研修

- 研修の構造による学び
- 研修の内容による学び
- 集団の質による学び

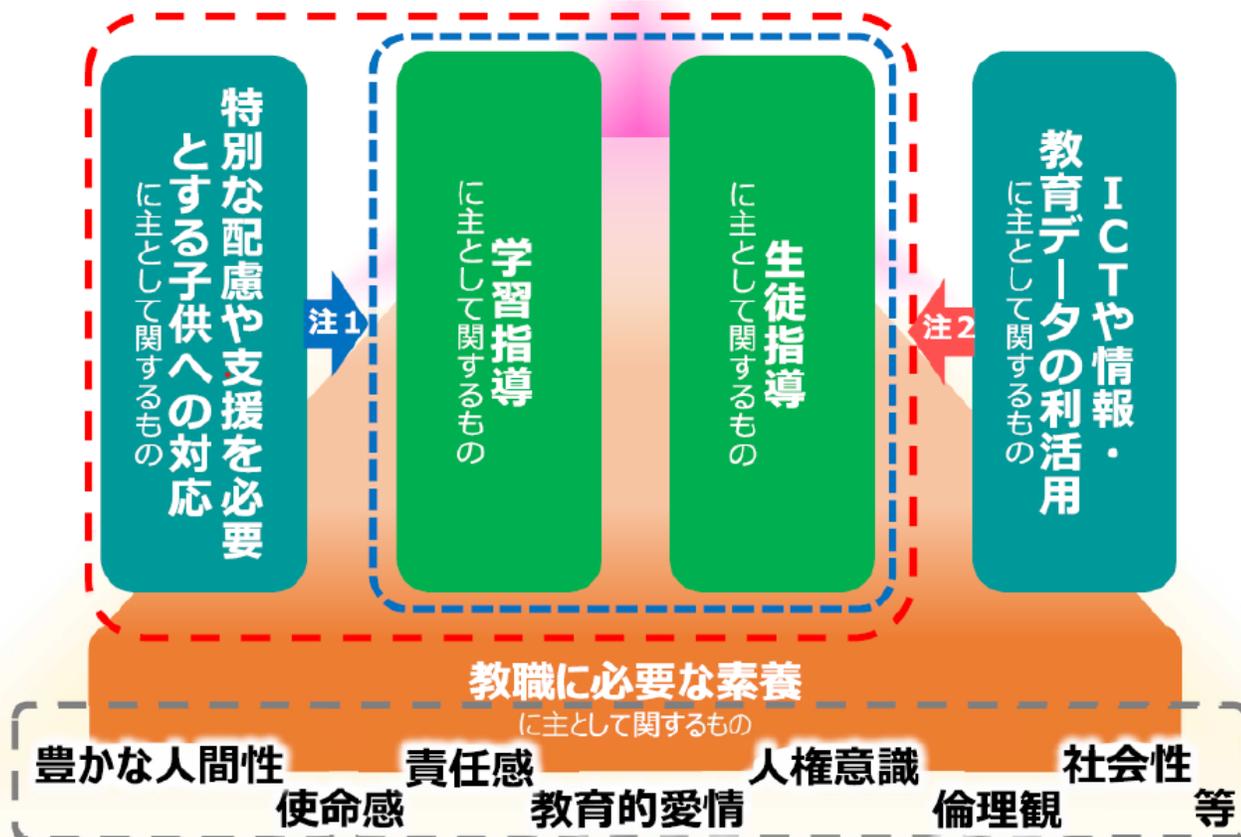
成果活用

- 内発的な課題設定
- 役割分担と人材育成
- 日常的な改善サイクルとその可視化

育成指標の再整理

- ・ 育成指標は、各自治体が地元の大学などと協議会を設置し、地域の実態に応じた育成指標を設定という建前
- ・ 免許更新制の発展的解消に伴い、研修の受講が奨励され、そのプラットフォームが全国規模で設置

【5つの柱の位置付け】



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

注1) 「特別な支援・配慮を必要とする子供への対応」は、「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとしての位置付け

注2) 「ICTや情報・教育データの利活用」は、「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段としての位置付け

文部科学省が示す柱	とくしま教員育成指標の柱（校種・職種）
①教職に必要な素養	○素養（全校種・職種）
②学習指導	○授業力・学習指導（全校種・教諭） ○専門的職務実践力・学習指導（全校種・養護教諭及び栄養教諭）
③生徒指導	○担任力・生徒指導（全校種・職種）
④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応	○特別な配慮・支援（特別支援学校教諭以外） ○特別支援の充実（特別支援学校教諭）
⑤ICTや情報・教育データの利活用	○ICTの利活用（全校種・職種）

育成指標と学習指導要領

- 日常の教育活動そのものが(子供の)人材育成
- 教育活動の土台となっているものが学習指導要領
- 学習指導要領は、学年として身につける力が示され、それをどのように習得するかガイドとなっている
- 育成指標も、教師として身につける力が示され、それをどのように習得するかガイドとなっている？
- 学習指導要領に準拠した教科書に基づき、授業を行うことで、目標に到達
- 育成指標に準拠した研修計画に基づき、研修を受講する事で、目標に到達？

キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞
		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期
A 使命感・倫理観	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。 ○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。 ○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。 ○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。 ○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。 ○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。 ○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。
B 識見・学び続ける力	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。 ○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。 ○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。 ○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。 ○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。 ○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。 ○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。
C 社会性・コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。 ○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。 ○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。 ○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。 ○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。 ○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。 ○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。
D 学校組織マネジメント力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。
E 連携・協働力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。
F 危機管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。

授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力	○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
			○ 学力調査・学校評価等の結果を、日々の授業改善に結び付けている。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学年や担当教科等の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案し実践している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学校の課題を把握し、改善策を組織的に展開している。		
	B	授業構想力	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
			○ 基本的な指導技術を身に付け、児童の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・児童とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に、自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。	
	C	授業実践力	○ 児童の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 児童の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。	
			○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 校内や郡市の研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。	
	D	授業省察力・改善力					

担任力・生徒指導	A	児童生徒理解力	○ 児童理解の意義や、児童の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。
	B	集団づくり力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、児童会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。
	C	課題解決力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。
	D	未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できる素地を育てる指導をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野と低・中・高学年のキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。

A 個に応じた指導・支援力	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別の教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の観点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。
B チームによる実践	○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、児童同士の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童を支援する体制の整備を推進している。
C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	○ 学びに困難さを抱える児童への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言している。
D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。
A ICTを学習指導に活用する力	○ 児童の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。
	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。
B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。

授業力・学習指導 A カリキュラム・マネジメント力

ステージ1

学校教育目標を踏まえつつ、児童の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。

必要な要素

到達基準

到達するために必要なこと
= 研修内容

学校教育目標を踏まえた学校の
カリキュラムが作成されて
いる

学校のカリキュラムと学校教
育目標の関連を読み取れる力
がある

学校のカリキュラムと学校教
育目標の関連を協議する場の
設定

どのように踏まえているか、
その意図が明確であり、かつ
共有されている

カリキュラムをもとに、日常
的に実践できると同時に、そ
の実践が児童の実態に対応し
ているか、省察できる

学級のカリキュラムを編成し、
その内容を検討する場の設定

学校全体を踏まえつつ、学級
の児童の実態に応じ、微修正
ができる

ステージ2 前半

学校教育目標を踏まえ、児童の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。

ステージ2 後半

学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。

ステージ3

地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。

授業力・学習指導 B 授業構想力

ステージ1

児童の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。

必要な要素

到達基準

到達するために必要なこと
= 研修内容

ステージ2

児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。

ステージ3

これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。

担任力・生徒指導 B 課題解決力

ステージ1

様々な課題に気付き，児童，保護者，他の教職員と相談しながら，的確に課題解決を図っている。

必要な要素

到達基準

到達するために必要なこと
= 研修内容

ステージ2

課題の未然防止や迅速な発見に努め，必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り，その様々な方策について，若手教員に助言をしている。

ステージ3

学校が直面する様々な課題を把握し，組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。

特別な配慮・支援 D 「わかった」「できた」を育む生活支援力

ステージ1

児童が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内 ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。

必要な要素

到達基準

到達するために必要なこと
= 研修内容

ステージ2

特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。

ステージ3

個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。

ICTの利活用 A ICTを学習指導に利活用する力

ステージ1

育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。

必要な要素

到達基準

到達するために必要なこと
= 研修内容

ステージ2

最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。

ステージ3

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。